

II 実践報告 小学校生活科第2学年における実践

第2学年 生活科学習指導案

指導者 山梨市立牧丘第一小学校

倉田 和美

- 1 単元名 ふしぎたんけん ふれあいたんけん
～タイムマシンによって昔の学校へ～

2 単元設定の理由

この単元は、学習指導要領2内容(3)「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」に関する学習内容である。住んでいる町の探検を通して、地域に関心を持ち、人や地域のことをより一層深く気付くことができるようにすることがねらいである。

来年度本校は近隣3校と統合することが決まっている。町探検の機会に、牧丘郷土文化館(旧室伏学校)を訪れ、昔の学校に触れさせ、長い歴史を刻んできたことに気付かせたいと考える。旧室伏学校(藤村式建築)は、児童が遊び場として利用したり、1年生の頃に生活科の学習で訪れたりした彩甲斐公園の一角にあるため、何度も目にしたことのある場所である。しかし、そこがどういう場所であるかを知っている児童はいない。また建物の中に入ったことのある児童は2名のみである。

そこで、ボランティアガイドの方の話を聞きながら、140年前に建てられた学校を見学し、現在の学校と昔の学校の違いに興味を持たせたい。さらに、旧室伏学校での町探検をした後は、現在の学校に至るまでの変遷を児童の家族や地域の方から教えてもらう活動や当時の写真などの資料集め、さらに家族へのインタビューなどを行う。その中で、2年生なりに歴史の重みに気付き、学校への愛着を持たせたいと考える。本単元のまとめでは、児童が見たり聞いたりしたことを、全校児童に知らせる掲示物作りに取り組みさせる。自分たちが学習したことを全校に知らせることにより、児童に達成感を味わわせるとともに、次の活動に意欲的に取り組むことができると考える。

これら一連の学習を通して、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる～」という生活科の目標に近づけていきたい。

□本校の変遷

- 1875年(明治8年) 室伏学校設立→諏訪尋常小学校→諏訪尋常高等小学校
1933年(昭和8年) 現在地に新校舍落成→諏訪国民学校→諏訪小学校
1954年(昭和29年) 町村合併により牧丘第一小学校と改称

- 1959年（昭和34年） 校舎落成
- 1984年（昭和59年） 現校舎及び体育館完成
- 2016年（平成28年） 4校統合により笛川小学校

*児童は学校の変遷がわかりやすいように次の呼び方をしていく。

- 1 番目の学校＝1875年設立の室伏学校
- 2 番目の学校＝1933年に現在地に初めて建てられた校舎
- 3 番目の学校＝1959年に建て替えられた校舎
- 4 番目の学校＝現在の校舎

□保護者・地域住民との連携の視点から

学校と地域・社会・保護者との連携の必要性が高まっていることをうけ、本單元では、学習の流れの中に地域の方や祖父母、父母と関わる活動を取り入れていく。学校が統合されるという大きな転換期である今年、子ども達が学校の歴史を学ぶことには意義があると考えます。折に触れ、子ども達の活動の様子をおたよりで知らせるなど学習内容を共有していきたい。また、ゲストティーチャーには、授業のねらいを明確に伝え、指導計画に沿った授業が展開できるようにしたい。

□ゲストティーチャー

- ・古明地登吉さん（ボランティア従事者）
- ・山本 光子さん（児童の祖母）・・・本時
- ・有泉 幸廣さん（元牧丘第一小学校校長）・・・本時

3 児童の実態

男子12名、女子3名（内、女子2名は特別支援学級在籍）、計15名のクラスである。

男子が極端に多い学級なので、パワーのある集団である。特別支援学級の児童を含めて15名で助け合う姿が多く見られる。好奇心旺盛で、何事にも一生懸命とりくむ児童たちである。

町探検の経験は、1年生の時に『学区内の散歩・遊び場の探検』を行い、草花や生き物の観察をしながら季節の変化に気付くことができた。また、地域の方との関わりについては、『むかしあそびをたのしもう』で祖父母を招いて、昔の遊びを教えてもらったり、一緒に楽しんだりする活動を経験している。どの学習内容においても興味を持って活動することができた。しかし、インタビューをしたり答えを聞き取ったりすることが苦手な児童がいたり、生活経験の違いから生じる知識量の差があったりするので、活動においては支援や配慮をしていきたい。

4 単元の目標

- 昔の学校の見学を自分たちで計画し、それに基づいて探検することができる。
- 観察したり、調べたりすることで、自分たちの地域に関心を持ち、人や地域のことに

より一層深く気付くことができるようにする。

5 単元の評価規準

(生活への関心・意欲・態度)

○進んで学校の歴史を見たり，調べたり，人と関わったりすることができる。


(活動や体験についての思考・表現)

○町探検や地域の方との関わりの中で，見たり聞いたりしたこと，考えたことを，多様な方法で表現し，伝えることができるようにする。

(身近な環境や自分自身への気付き)

○町探検や地域の方との関わりを通して，学校や地域への愛着を深めることができる。

6 単元の指導計画



小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準 (評価方法)
1 室伏学校へ行ってみよう 	○探検で行ってみたい場所を話し合う。 ○探検の計画を立てたり，約束を決めたりする。 ○室伏学校へ探検に行く。 ・ボランティアガイドの方のお話を聞いたり，施設内を見学したりする。 ・疑問点を質問する。 ○探検のまとめをする。 ・お礼の手紙を書く。 ・わかったことを模造紙にまとめる。	思①：相手や場所に応じた行動について考え，活動の計画を立てたり，約束を決めたりしている。(行動観察) 関①：昔の学校に関心を持って見たり聞いたりしている(行動観察) 気①：昔の学校と今の学校の違いに気付いている。(行動観察・学習カード) 思①：探検してきたことを基に，わかったことや自分の気持ちを分かりやすい伝え方の工夫をしている。(手紙・学習カード・模造紙)
2 もっと知りたいな，むかしの学校 (3時間)	○室伏学校以降の学校のことについて調べたいことを話し合う。 ○昔の体育館である講堂の探検をする。	関②：学校の歴史に興味を持ち，さらに調べようとしている(行動観察・学習カード) 気②：昔の体育館(講堂)と今の体育館の違いに気付いている。(行動観察・学習カード)

		ード)
3 教えてもらおう、むかしの学校 (2時間)	○児童の祖母、地域の方から、室伏学校以降の学校について教えてもらう。 (本時) ○児童の家庭から協力してもらった、昔の学校の様子がわかる写真などを見る。 ○父母の子どもの頃の学校の様子を各家庭でインタビューする。	関③：昔の学校に関心を持って聞いている。(行動観察) 気③：昔の学校と今の学校の違いに気付いている。 (行動観察・学習カード)
4 全校のみんなに教えてあげよう。(5時間)	○学校の変遷についてわかったことを模造紙にまとめる。 ○全校児童に見てもらえるところに掲示する。 ○お礼の手紙を書く。	思②：昔の学校について教えてもらったことを基に、わかったことや自分の気持ちを分かりやすい伝え方の工夫をしている。 (手紙・学習カード・模造紙) 気④：学校に対し親しみや愛着を持っている。 (行動観察・学習カード)



- 7 本時の
- (1) 14:00~14:45
- (2) 場所 校舎第一小学校2年教室
- (3) 題材名 「教えてもらおう、むかしの学校」(指導計画3の1時間目)
- (4) 目標 昔の学校と今の学校の違いに気付くことができる。
- (5) 展開

過程	学習活動	活動上の支援(◇評価)	備考
導入 5分	1 「室伏学校(1番目の学校)」で見たり聞いたりしてきたことを振り返る。	・前時までの学習を簡単に振り返らせる。	タイムマシン 模造紙

	<p>2 2番目・3番目の学校の写真を見て、気付いたことを発表する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のきっかけとして、2番目3番目の校舎の写真を見せ興味を持たせる。 	<p>校舎の写真</p>
<p>展 開 35分</p>	<p>学校については山本さん、3番目の学校については有泉さんに質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ建てられたか？  <p>5 を</p>  <p>たこと</p> <p>6 有泉さんから、まとめのお話をうかがう。</p>	<p>◇昔の学校に関心を持って聞いている。 ◇昔の学校と今の学校の違いに気付いている。 (行動観察・学習カード)</p> <p>い工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えてもらったことを発表し合い、それぞれの学校の様子を交流させる。 ・ゲストティーチャーから学んだことを分かち合う場とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・2～4番目の学校の移り変わりに関わっている有泉さんに当時の思い出や学校に 	<p>学習カード</p>

むろぶし学校 ニュース

6月 日 名前



むろぶし学校にあるまどは
 はよろいまどという名前
 ですごくきれいなまど
 のまどとはちがいました。
 ふしぎなよろいまどで
 とてもきれいなよろい
 まどでした。

		<p>対する思い、また児童へのメッセージを話していただく。</p>	
ま と め 5分	<p>7 学習のまとめをする。 ・学習カードに振り返りをする。 ・振り返ったことを発表する。</p> <p>8 次時の予告をする。</p>	<p>・本時の学習でわかったこと、気付いたこと、感じたことなどを発表させる。 ・昔の学校についてわかったことを全校に知らせる方法を考えることを伝える。</p>	学習カード

◆学習カード◆

タイムマシンにのっておかしな学校へ
まちたんけんカード (むろぶし学校)

見たり聞いたりしたことを書こう。

つくえ・いす・まど・こくばん・なかほどどうなっているかな?

つくえは、ふたつとペンをようてる。
いすは、つついている。
こくばんは木でできている。
まどは二じゅうた、たの^{まど}まど。
ゆかほ、木で、できていってるつるつるだった。
かいたんを木でつるつるつるつるだった。
そとが見えるところから、いすの中をみはさぬ。
中は、ほんと木。

おかしな子どもの数何人かな? いくつかとれたかな?

おかしな子どもは140人。
1年生のこどもは、
1年生は6人が同じや。
たてのちまをはめいする年、100年まえ。
おはしたたのは、2年生になるには、いい。
ないとなれない。
まどをあいてあがる。
三つめの学校からこうどうかたは、いい。
かんがえた。

おかしな先生は、おかしなことをいした。
にほんのかきぎのこどもをあかき。

たのこどものことを教えてもうえたわ。
くわいなく、Xもしてあるわ。

タイムマシンにのっておかしな学校へ
(2ばん日・3ばん日の学校のことをしよう。)

◆じぶんがしつもんすること◆

どんなどうぶつがいきましたか。

◇こたえ◇

ねず"子がいた。

◆たのこがしつもんすること◆

子どもや先生の数は、なん人でいいか。

◇こたえ◇

三つおこくらす40人、せんせい800人。
たつ先生は25人もあつた。

★きょうの学習をりかえて★

とりこやていんこをかりました。
ありいす"み生先が"子と"ものころ
せんせい800人もいておどろきました。
となりには中学校があつて、つんどう
場で小学生はあまりあつてなかつた
そつでした。今はちがひが、いりいりあつて
おどろきあつた。

タイムマシンにのっておかしな学校へ
(2ばん日・3ばん日の学校のことをしよう。)

◆じぶんがしつもんすること◆

子どもや先生の数は、なん人でいいか。

◇こたえ◇

だいたい40人、12人が一年、700〜800人
先生20人

◆たのこがしつもんすること◆

体いかに、おかしな学校へ、広くなつたか。

◇こたえ◇

ありません。

★きょうの学習をりかえて★

はじめで知りませんでした。体いかに、おかしな
てやるのが、ふしぎでした。人すうが
700人〜800人で、あつて、いりました。
かたに、おかしな学校へ、あつた。まじり
こども、ふしぎでした。

ふしぎなことを、いした、こども、いりいりあつたわ。

むろぶし学校とくらべて、どうなつて、いり
いりあつたわ。

タイムマシンにのって講堂へ

ふしぎなこと・見つけたものを書こう。

ステージのたんざが、ひくい。
ごみばこがステージにある。
2かいがある。
さくらのたいくか、の毛ようか、まきー
しょうのちかくに、あつたのに、ちがひ。
まどから見たら、あつた、たかくなかつた。
キリンがある、てんきか、ぶらさか、
かみか、ち、てる。
ら、か、てる。か、さか、あつた。
けんかん、てんき、(はちのすか)あつた。
か、あつた。

いりいり見つけたわ。
ふしぎなことも、いりいりあつたわ。

2年 生活 14 ばん 5組

タイムマシンによっておかしな学校へ

(おとうさん・おかあさんの学校のことを知ろう。)

◆教えてもらった人◆

おとうさん 母のおかあさん 先生

①学校の名前を教えてください。 まきあかだいの学校

◆授業がどういっしょの学校か、それはどんな感じの学校でしたか？
3 ばん

②子どもや先生の人数は、何人くらいいましたか。
先生の人数は30人くらいいました。

③おとうさん・お母さん・お父さん・お母さん・お父さん・お母さん
おとうさんはお父さん、お母さんはお母さん、お父さんはお父さん、お母さんはお母さん、お父さんはお父さん、お母さんはお母さん。

④どんなおもしろい学校でしたか、どんなおもしろい学校でしたか。
13くらで、おもしろい学校か。

⑤おもしろい学校かどうありましたか。
こういっしょはあつた。

お休み時間にはなにをもしましたか、どんなおもしろい学校でしたか。

うまのり、たまごが、おもしろい。

ブランコ、滑り台、おもしろい。

⑥おもしろい学校かどうありましたか。
おもしろい。

⑦おもしろい学校かどうありましたか。
いろいろなものをきいて、おもしろい。

★おとうさんやおかあさんの学校の話を聞いて、思ったことを書きましょう。

いろいろなことがおもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。

2年 生活 12 ばん 5組

タイムマシンによっておかしな学校へ

(2ばん目・3ばん目の学校のことを知ろう。)

◆おもしろい学校かどうありましたか◆

おもしろい学校かどうありましたか。

◇おもしろい◇

おもしろい学校かどうありましたか。

◆おもしろい学校かどうありましたか◆

子どもや先生の人数はなんですか。

◇おもしろい◇

おもしろい学校かどうありましたか。

★おもしろい学校かどうありましたか★

おもしろい学校かどうありましたか。

おもしろい学校かどうありましたか。

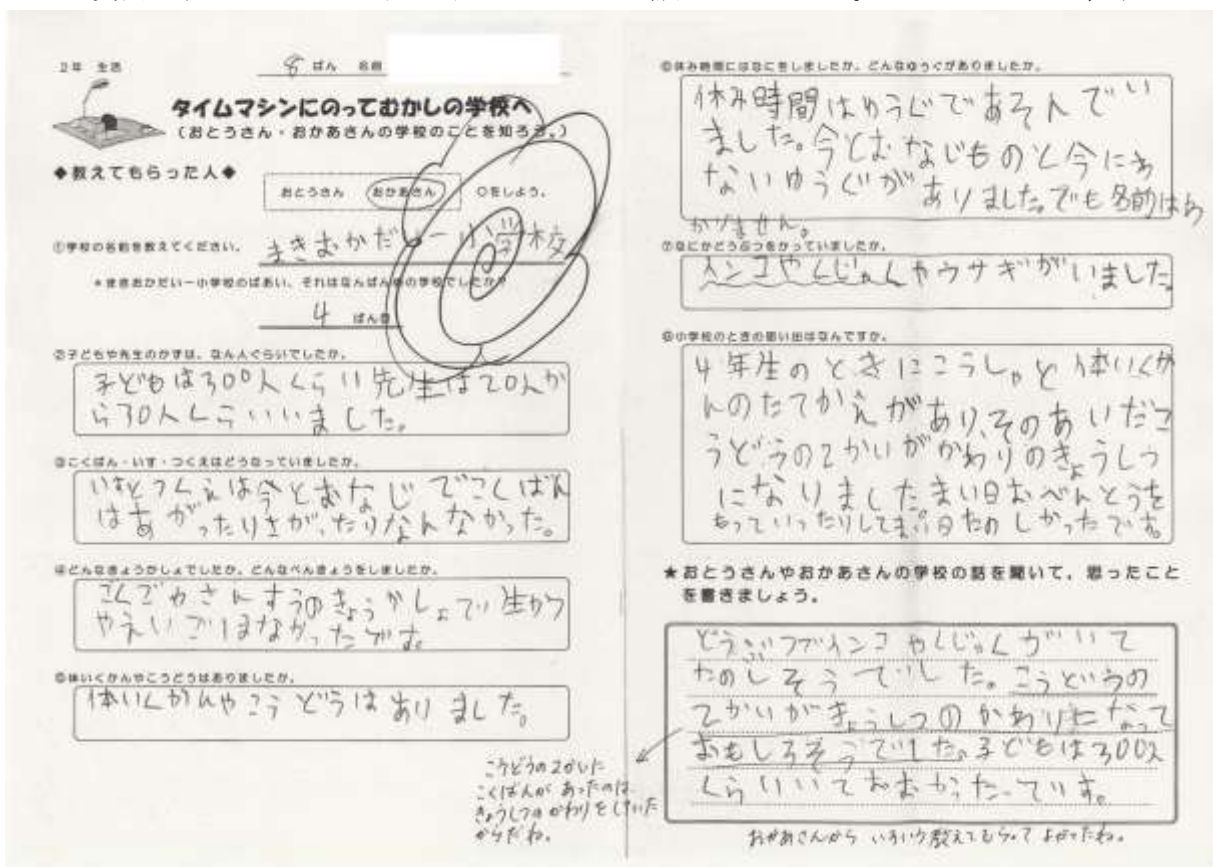
8 研究協議から

(1) 授業者の反省

- ・夏休み明けの5校時だったので、授業に集中できないのではと心配だった。
- ・タイムマシンに乗って昔の学校について調べていく活動については、やる気があった。
- ・ゲストティーチャーから話を聞く場面に時間がとられてしまい、まとめ（学習の振り返り）の時間が短くなってしまった。次時でもう一度まとめをしたい。その中で、「昔の学校と今の学校は違う」ということに気付いていてくれればいいと思う。

(2) 質疑

- ・ゲストティーチャーとの打ち合わせはどうしたか？
→あらかじめ児童に質問カードを書かせ、それをまとめたものを2人のゲストティーチャーに渡しておいた。山本さんは、友人にも当時の学校の様子を聞き、メモを書いて準備をしてくださった。
- ・子どもたちは統合をどう思っているのか？
→始めは「校歌が変わる」「学校名が変わる」ことに抵抗があった。しかし今は、友だちが増えることを楽しみにしている。
- ・ゲストティーチャーに質問をするとき、ペアにしてメモをさせたのはなぜか？
→答えを聞きながら要点をまとめて書くことは2年生では難しいと思ったから。自分の質問の答えをしっかりと聞き取らせることを徹底したかった。ペアの子どもが、答えを



メモしておくことで、カードに形として残すことができる。

- ・有泉校長先生のまとめの話は打ち合わせをしておいたのか？

→授業案は渡してあったが、内容は特に指定せず、児童へのメッセージを話してもらった。とてもいいお話をさせていただけて良かった。

(3) 討議

導入

- ・前時までの振り返りが効果的だった。写真で視覚から訴える入り方が良かった。
- ・1番目の学校（室伏学校）のまとめがわかりやすい。観点ごとに書いてあってわかりやすかった。

展開

- ・2つのグループに分かれたのが良かった。しかし、ゲストティーチャーの話を離れていても聞ける子どもはいいが、中には集中できない子どももいたようだ。
- ・2つのグループの交流を入れたこと、質問する内容が同じだったことで、違いを比べ合うことができた。
- ・子どもの「英語がなかったんだって」「下駄だって」「体育館がなかったんだって」「へえ〜」などの反応があり、目標の「気付く」は達成されていたと思う。さらに、宿題になったワークシートの感想に出てくると良い。

全体を通して

- ・ペアにして質問したりメモをしたりの活動は言語活動の工夫だと思った。
- ・「先生は3番目の学校に通った」という話を聞き、家に帰って家族に尋ねるなど、関心を持つことにつながると思った。

(4) 指導助言

- ・時間配分や場の設定が良かった。子どもの出番が作れていた。2つのグループにすると片方の話だけしか聞けないが、2年生という発達段階では自分の聞きたいことを自分で質問するという点からこの方法で良かった。
- ・ペアを作って答えをメモしたのも良かった。いい方法だった。
- ・最後まで子どもたちがしっかり頑張っていた。
- ・「比べて気付く」は達成できていた。中学年へのはじめの一步になる。
- ・歩いて探検でき、地域にあるものを題材にしてうまく使っていた。写真や知っている人材をうまく使った。
- ・統合もあって時期にマッチしていて、いい授業となった。

Ⅲ まとめ ー成果と課題ー

○2年生の生活科の研究授業は、本部会でのこれまでの研究の積み重ねが感じられる実践であった。地域にあるもの（施設・人材・写真など）をうまく使ったすばらしい授業であった。また、ゲストティーチャーの話の聞き方や、メモの仕方など、授業形態の工夫がみられ、言語活動を取り入れた授業としてもよかった。ゲストティーチャーを招くことで、授

業がより深まり、地域を知り、郷土を愛する心を育むことができた。

- 具体的なとりくみについて、各学校の実践発表を聞くことによって、お互いに参考になる面がたくさんあり、それぞれの学校での工夫点等を共有することができた。また、今年度は中学校の先生にも加わっていただいたことで、研究に広がりをもつことができた。
- 学校と地域住民との関わり方について学校は受け身的になるのではなく、学校の方から積極的に地域にアピールしたり、情報を発信したりすることも大切であること、学校の実態、地域性を生かしながら好ましい連携のあり方を探っていくことが大切であることを再確認できた。
- 以前に比べ、学校が保護者や地域住民との関わりを持つ機会が増えている。何のために交流をするのかという目的意識をしっかりと持ち、学校・保護者・地域住民とが共通理解のもとで行うことが大切である。
- 保護者・地域住民との関わりを単発的に終わらせるのではなく、継続させていくことが大切である。連携を通して、家庭の教育力を高めていくことができるとよい。
- 外部講師への対応の仕方（謝礼はどうするか、保険の必要性はどうか等）を事前にしっかりと考えておく必要がある。
- これからも、学校と保護者・地域住民の方々とのコミュニケーションを多くもち、「地域の学校」「地域の子どもたち」という視点でお互いが協力して活動できるよう努めていきたい。そして、地域に「開かれた学校づくり」となるように活動を展開していきたい。